

夫とお茶

夫と結婚するまで、山口県で生まれ育った私は、お茶を飲むことはほとんどなかった。私がお茶に目覚めたのは、静岡県のお茶どころに生まれ育った夫と結婚したからだ。

結婚と同時に夫がイギリスの大学院に留学したため、新婚生活はイギリスで始まった。私はイギリスで仕事をみつけたが、イギリスの物価は高く学費も高いため、必然的に節約生活になった。ロンドンの日本食材店で日本茶が売られているが、日本で買う約二倍の値段だ。スーパーには中国産などの緑茶のティーバッグが売られているが、日本茶と比べると味がほとんどしない。結果、イギリスではもっぱら紅茶かコーヒーを飲んでいて。

イギリスで新婚生活を始めて数ヶ月後、日本にいる姑から小包が届いた。夫の地元の深蒸し茶、抹茶の羊羹、抹茶のカステラ。どれもこれも、おいしそうでその小包は宝箱のように見えた。

早速、姑が送ってくれた深蒸し茶と抹茶のカステラで、ティータイムだ。電気ポットでお湯を沸かし、お湯でティーカップを温め、沸騰したお湯でお茶を淹れた。

「お茶がまずい。本来お茶は甘くて美味しいのに、お茶の良さを全て台無しにしている」

私の淹れたお茶を一口飲んで、夫はこう言い放った。

せっかく心を込めて淹れたのに、その言い方はないだろう。私はかなりムッとした。「じゃあ、代わりに淹れてみてよ」

「深蒸し茶や煎茶は熱湯で淹れないこと。急須にお湯を入れたら少し時間をおくこと」

夫はお茶の淹れ方を説明しながら、お茶を淹れ直した。誰が淹れてもお茶なんて同じ味だと、高をくくっていたが、確かに夫の淹れたお茶の味は違った。私のお茶は、熱いだけで味がほとんどしない。しかし、夫の淹れてくれたお茶は、まるやかでほんのり甘い。まあいいやさしい味だ。

夫はお茶を飲みながら、春と夏は茶畑が緑色に輝き美しいことを教えてくれた。そして、私に茶畑を見せてあげたいと言った。

それから私は、夫の言葉に従いお茶を淹れ、一日にお茶を何杯も飲むようになった。そして、お茶の甘さや美味しさが少しずつわかるようにもなった。煎茶、深蒸し茶、抹茶、玉露、ほうじ茶、番茶と日本茶にもいろんな種類があることを知った。私の一番のお気に入りには夫の地元で栽培される深蒸し茶だ。深蒸し茶は、きれいな深緑色で、味は濃いけど煎茶に比べ渋みが少なくまるやかだ。

イギリス、日本、ケニア、パキスタン、十二年間の結婚生活ではいろんなところで暮らした。海外に行く時は、いつも夫の地元の深蒸し茶をたくさん持って行った。二度目のイギリス生活では、「イギリスで静岡の深蒸し茶を売りたいね」と夫と二人で販売計画を空想した。

食事をする時、一息付きたい時、けんかをして仲直りする時、おしゃべりをしながら、読書をしながら、テレビをみながら、何百杯、何千杯、夫と一緒にお茶を飲んだらどうか？

夫はもうこの世にいない。二年間の闘病の末、夫はこの世を去った。夫と人生を歩むことが私の幸せだった。夫のことが大好きでも、働きながら病気の夫を支えるのは、時には辛いこともあった。そんな中、私は息抜きを兼ねて、通信教育で勉強し日本茶のある資格を取った。夫の具体が良い日は、勉強のために二人でお茶博物館に行った。満月の夜に茶摘みをするという地元のイベントにも参加した。

夫は回復途中で急に状態が悪くなり、あっけなくこの世を去った。夫の死を受け入れられず混乱した気持ちの中、夫の葬儀が執り行われた。しかし、お通夜と告別式のお返しの品を決める時は、迷わず決めることができた。おいしいお茶が好きな夫に恥ずかしくないよう、葬儀社のカタログの中から一番良い地元の深蒸し茶を選んだ。

私は今、夫の生まれ育った町で姑と二人で暮らしている。朝起きて私がまずすることは、お茶を二杯淹れることだ。一杯は夫の写真と位牌の前に供え、もう一杯は私が飲む。夫の位牌にお茶を供える時、「おはよう」と夫に挨拶をする。帰宅すると「ただいま」と夫に挨拶をし、夫の位牌に供えていたお茶を飲む。

夕食は姑と二人で食べる。お茶を飲みながら食事をし、姑と夫の話を少しする。夫が亡くなってからしばらくの間は、生きる気力を失い、この世の全てを憎み、毎日泣いていた。夕食後お茶を飲みながら、姑と夫の話を繰り返すことで、私の心は少しずつ癒されていく。完全ではないが、なんとか憎しみを手放すことができた。夫を亡くした悲しみが、私の心から完全に消えることはないが、涙せず愛おしみながら夫のことを思い出すことができるようになった。

夫が亡くなってから、私はお酒を止めた。夫がいない寂しさから酒量が増えてしまうのが怖かったからだ。その分お茶をたくさん飲めばいい。

「お茶は上手に淹れると、ほんのり甘くておいしいよ。お茶は健康にも良いから、たくさん飲むのはいいよ」

夫のやさしい声が私の心によみがえる。

私は今日もお茶を飲む。



©YUtoMI Solutions Co., Ltd.

無断転載・無断使用を禁止します。